

今月のコラム

令和元年は「新しい屋内緑化元年」に 株式会社伊藤商事 会長 伊藤 孝巳氏

5年程前、東京で屋内緑化推進協議会の立ち上げに私も参画し、活発に活動しています。ちょうど花きの振興に関する法律(通称：花き推進法)が国会で全議員賛成で可決し、花緑が贅沢品ではなく、私たちの生活に必要なものという位置づけがされたころ…

そして、昨今では、働き方改革から始まりその環境、花緑の効用云々と植物と人との関わりや重要性がクローズアップされています。協議会の立ち上げは、タイミング的にはよかったと思っています。



<新しい屋内緑化元年>

ところで、令和元年は「新しい屋内緑化元年」になると私は確信しています。

どういうことか…わかりやすく言うと、実は屋内緑化推進を唱えながら、私個人的には室内に土を持ち込むことには大変な抵抗感を感じていました。それが、この半年、いろいろな人との出会いにより、固化培土ほか新しい培地の紹介を受け、今まで使ったことのない、新しい素材で十分に生育し商品性の高いものであることを知りました。土を室内に持ち込むことをしなくても、立派なディスプレイができる！さらに燃えるゴミとして処分できる！私の屋内緑化の夢が一気にふくらみました。

<新器材 グリーンシャンデリア>

従来、園芸というとほとんどが、花壇であったり、鉢植えであったり…また室内より屋外の方が対象になる場合が多いですね。外には熱帯から寒帯、さらに四季があったりして条件はいろいろ複雑です。でも住居や仕事の環境は世界中ほぼ同じです。こんな大きな潜在需要に対し、新しい提案がなされていないと思いませんか？

私は土を使わない新培地との出会いでやる気満々！「新しい屋内緑化元年」を提唱するつもりです。特に日本で開発された技術を世界に向けて発信する！もう数年、元気で夢を語りたい78歳です。

写真左:東京ドーム 国際ラン展2018年2月
主催者の展示のプロジェクトマッピングの場所で
グリーンシャンデリア 2Mを6基飾りました。
※写真は使用しているコチョウランを提供いただいた
椎名洋ラン園 椎名正樹さん撮影。



写真右:オフィス緑化器材
オフィスの天井の補強など不要、好きな位置へ移動も
できる。一式セットです。
通常のオフィス(H2.5~2.7M)で使えるよう2.3Mの
高さ。組立が簡単、下部の水受け盤は植え込みに使え
ます。



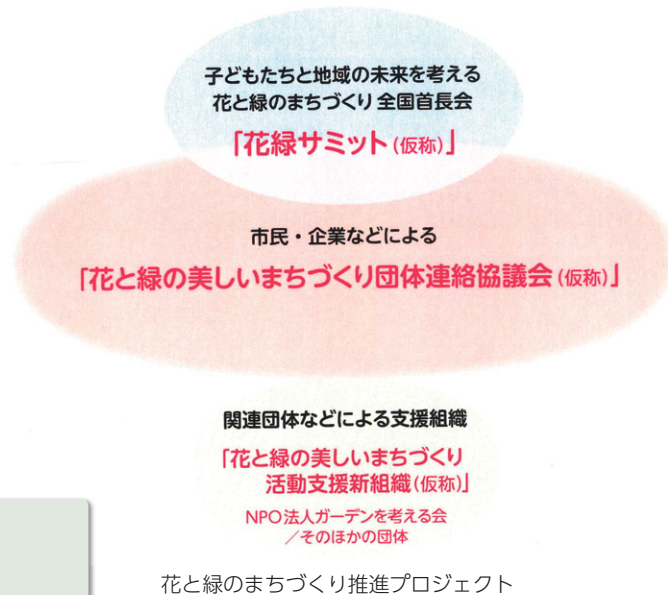


 ガーデンを考える会総会のご案内

6月6日(木)、京都府亀岡市にて開催！

今年度の総会は「子どもたちと地域の未来を考える 花と緑のまちづくり」の発起人である亀岡市のまちづくりの視察も兼ねて、ぜひ会員の皆さまに、当会の主軸事業の一つでもある「花と緑のまちづくり事業」の活動方針についてお伝えしたいという思いから、京都府亀岡市で開催する運びとなりました。

遠方の会員様も多く、ご不便をおかけしてしまい恐縮ですが、ご参加いただけますと幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。



12:30 ~	総会受付
13:00 ~ 14:00	総会
14:10 ~ 15:10	桂川亀岡市長より「花と緑のまちづくり」について講演会
15:15 ~ 16:00	理事より「花と緑のまちづくり」の趣旨説明
16:00 ~ 16:40	ギャラリーかめおかへ移動、見学会
16:45 ~ 17:45	懇親会

 「子どもたちと地域の未来を考える 花と緑のまちづくり」全国首長会の働き

全国首長会発起人会、6月5日に松本で開催！

前号で既報のように、9月フォーラム開催時に発起人となったのは桂川亀岡市長、谷藤盛岡市長、豊岡三島市長、久住見附市長の4市長であったが、その後、今年に入り、原口鴻巣市長、林横浜市長、和田小松市長、門淡路市長、久保田宇部市長が発起人に加わり9首長となった。ほかに検討中の市もあり、参加する市の人口は374万人の横浜市をはじめ500万人から600万人になりそうだ。当初予定の10首長程度で「子どもたちと地域の未来を考える 花と緑のまちづくり全国首長会」の発起人会が、4月25日から6月16日まで開かれている第36回全国都市緑化フェア「信州花フェスタ2019」会場の1つ、松本市で6月5日に開催される。

全国首長会発起人会では、会の規約、今後の方針などを決め、それを受けてできれば早急に全国の市町村首長に向けて入会を勧めていきたい意向のようだ。そして、全国の首長が集まる第1回の全国首長会サミット(仮)を早ければ今秋にも開催できればとしている。

全国首長会では、学識経験者などを顧問に依頼していく組織体制なども検討しているようだ。

(4月1日現在)



会からのおしらせ

子どもたちと地域の未来を考える 花と緑のまちづくり 首長会発起人のご紹介

静岡県三島市

美しく品格のあるまちづくりを目指す

三島市では昭和50年代前半から、まちを花いっぱいにしようという取り組みが始まっていました。昭和55年には「三島花の会」が設立され、公共花壇の植栽などを行なってきて平成13年に「みどりの愛護功労者」国土交通大臣賞、平成22年には秋の緑綬褒章をいただいています。

私が市長に就任したのは平成22年12月。三島市には富士山から流れる非常にきれいな水と歴史的な建造物である三嶋大社、楽寿園という公園などがあり、それらを生かして美しく品格のあるまちを作ろうと「ガーデンシティみしま」を推進しました。ガーデンシティを宣言して8年、観光客が300万人以上増加してまちを活性化しています。
(GadenCenter2019年3月号より)

観光客の利用が増えた三島駅前にある花壇▶



豊岡武士三島市長



岩手県盛岡市

2004年度から公共空間への花飾りを開始 日本一のハンギングバスケットのまちに!

学生時代にアメリカ・シカゴに行き、まちがゴミだらけでスラム化していたのを目の当たりにしました。20年後、再びシカゴに行くと、まちは美しく生まれ変わっていました。シカゴ市長が治安の良いまちにするために、スラム街を公園に変え、スラム街の住民にまちの清掃の仕事を与えたのです。美しいまちは、治安が良くなるだけでなく、観光客も呼び込んでいました。このような体験をもとに、市長になったとき、盛岡をガーデン都市にすることを掲げました。公共空間へのハンギングバスケット設置数については、2015年に全国の都市の状況を調査して、全国第1位であることがわかっています。市の事業で設置したもの以外にも、個人の家の庭先や、民間企業や大学の自主的な取り組みとして多くのハンギングバスケットが設置されるなど、市民や企業にも浸透してきています。沿道に飾られているハンギングバスケットは美しいまちなみを演出しており、市民や観光客から高い評価を受けていると感じています。

(GadenCenter2019年5月号より)



谷藤裕明盛岡市長



中の橋通り商店会のハンギングバスケット。県道や国道に設置しているものは揺れ防止のワイヤーを施している



会のニュース

第10回エクステリア&ガーデンフェア名古屋に出展

▶ 5/10 (金) 10:00 ~ 18:00、11日 (土) 10:00 ~ 16:00 ポートメッセ名古屋

ガーデンを考える会は「ドライガーデン」と「ウェルカムディスプレイ」の2つをテーマに、会員企業が共同出展する。

①メンテナンスフリーの「ドライガーデン」

水やりや除草などのメンテナンスがほとんど必要がない、耐寒性の観葉植物や多肉植物を使ったガーデン展示。用土は、一般的な土質のものを使わず、軽石やセラミックなどを使用して雑草の発生を抑える。

②玄関周りを植物で彩る「ウェルカムディスプレイ」

ローメンテナンスでゆっくり生育する植物、お洒落に飾るシステムの提案展示。

園芸業界ニュース

今年も千葉・茨城県各所の会場を中心に開催 パットライアル 2019春

▶ 基本開催日時 5月20日 (月) ~ 24日 (金) 9:00 ~ 16:00

※開催日時は会場によって異なるのでご注意ください。

千葉・茨城県内に点在する農場で、種苗各社によるパットライアルが今年も開催される。生産者が来シーズンの生産品目を検討する重要な展示会だが、各社のイチオシ品種が最高の開花状況で確認できることから生産者のみならず、小売り・流通関係者も多く来場し、多くのメーカーが共同出展する一大展示会になった。(GardenCenter2019年5月号より抜粋)



○各会場(50音順)

M & B Flora・タキイ会場

京成バラ園芸会場

ゲブラナガトヨ会場

シンジェンタ・カネコ・サントリー会場

高松商事会場

ハクサングループ会場

ハルディン・サカタ会場

雪印種苗内覧会



昨年の会場の様子